

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- 主体的に学び考え行動することで、課題解決のための「確かな学力」の育成を図る。
- 将来を見据えた多様な進路希望に対応しつつ、その実現のための支援の充実を図る。
- アントレプレナーシップに基づく自治活動を推進し、社会性と倫理観の醸成を図る。
- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を核とした探究活動の充実を図る。
- 働き方改革によるワークライフバランスを目指し、ウェルビーイングの実現を図る。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、適切で論理的な課題の発見と解決に導く知識・技能を身に付けると共に、複眼的なものの見方を育み、他者を思いやり、社会に貢献し得る人材を育成する一助とするために、以下の資質・能力を育成する。

- 科学技術と生命、環境と社会、人間の存在や平等・公正・幸福等について考える探究活動を通して、社会における問題の存在に気付き、多元的な問題解決の視点や方法について考える力を育てる。
- 国際社会に存在する問題に自分自身との関わりを見出し、自ら課題を設定し情報を処理し、論理的に整理し表現する力を育てる。
- 普遍的に人間の尊厳が尊重される社会を社会の一員として目指し、持続可能な社会の17の目標実現を意識して生活する意識や態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

課題に応じて成果物や取組状況の観察、ルーブリック評価を組み合わせ評価する。

- 自主的・主体的に問題解決に向けて調べ、考えを深めることができる。
- 探究の過程を理解するとともに課題解決の手法や相互理解の方法を身につけている。
- 課題に対して根拠に基づいて考えを深め、論理的にまとめていくことができる。
- 自らが探究してきたことをポスターやレポートにまとめ他者にわかりやすく伝えることができる。
- 他者の考えを聞き、疑問に思ったことを質問することができる。
- 客観的な視点を養い、自己の関心や適性に応じて、主体的に社会に参加し、目標を達成するために自ら行動することが出来る。

生徒の実態

- まじめで勤勉な生徒であるが、主体的な学習が苦手である。
- 進路実現に向けた積極性が乏しい。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- 校内での情報の共有化
- 個別の支援計画の作成

目指す生徒の姿

- 自主的・主体的な学習態度が身につく。
- 自己の進路について考え、目標に向けて進む態度が身につく。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 1年総合的な探究の時間「探究Ⅰ」
- (知識・技能) 講義や文献等を通して課題の背景となる知識を学ぶと共に、適切な情報収集や調査・実験の方法を身につける。
 - (思考力・判断力・表現力) 収集した情報を分析・活用し、課題を見いだす力を養う。考察した結果を他者に伝える表現力を培う。
 - (学びに向かう力、人間性等) 得られた結果を根拠に基づいて考察する活動を通して、科学的素養の育成を図る。社会的問題の自己問題化を図り、協働する力・主体的に行動する姿勢及び公共心を育む。
- 2年総合的な探究の時間「SP探究」
- (知識・技能) 研究課題に対する「問い」や「仮説」を立てるために文献等を通して背景となる知識を得、適切な情報収集や実験の方法を身につける。
 - (思考力・判断力・表現力) 情報や実験データを分析・活用し、課題を見いだす力を養う。協働する力・主体的に行動する姿勢及び考察した結果を他者に伝える言語活用能力を育てる。
 - (学びに向かう力、人間性等) 得られた結果を根拠に基づいて考察する活動を通して、科学的素養の育成を図る。
- 3年総合的な探究の時間「緑高タイム」
- (知識・技能) 自ら問いを設定し、適切な文献研究、実地調査等を行い、判断するために必要な情報収集の方法を身につける。
 - (思考力・判断力・表現力) 情報を正しく分析し、主体的に行動する姿勢、協働して課題を解決する姿勢、意見を他者に伝える言語活用能力を育てる。
 - (学びに向かう力、人間性等) 社会的問題、科学的問題を根拠に基づいて考察し、主体的に行動する姿勢を育む。

学習活動、指導方法等

- 一つの問題を解決するためには、文系理系の垣根を越えた方法や連携すべき分野が存在することを実感出来るよう、多くの問題を扱うのではなく、一つの問題に様々な糸口があることを、複数教科の教員が連携して講義や資料提示、演習を行う。
- 個による資料収集や思考と、班活動による役割分担や意見交換・修正を繰り返すことで、仮説・検証の妥当性を考える。
- 自らの考えや主張をクラス全体に発表し、意見や評価を受けることで、論理性や客観性を意識するとともに言語表現を工夫する機会を設ける。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- 各学年・各教科・各校務分掌において、情報を共有し連絡調整を行う。
- 家庭とも情報を共有し、情報・資料の提供や家庭内での会話等における協力を依頼する。
- 保護者や生徒に対してアンケートを実施し、指導状況を振り返る。